「心豊かに たくましく生きる子」　大合小学校　学校だより

共　創

NO 11
令和４年１月２８日発行

新型コロナウィルス・オミクロン株による感染症の急激な感染拡大が留まることを知りません。

静岡県も**１月２７日から２月２０日まで、「まん延防止等重点措置」の対象地域**となり、学校での対策レベルを上げざるを得ない状況となっています。島田市でも毎日多くの方の感染が認められるなど、近隣市町をあわせ、様々な学校、園で休校や学級、学年閉鎖の措置がとられています。本校でも今後の状況により、感染防止のための措置をとることもあります。オミクロン株は感染力が強く、いつ、誰が感染してもおかしくありません。**学校の感染防止の対応やご家庭での感染防止対応、感染された方とその家族の人権尊重などへ、皆様のより一層の御理解、御協力をお願いいたします。**

２月、節分の季節が近づくと、本年度も残り少なくなったことを実感します。また節分と聞くと、以前、３年生の国語の教科書に載っていた**「おにたのぼうし」（あまんきみこ作）**という物語が思い浮かびます。人の家に住みついた黒鬼の子が、節分の豆まきのたびに家を追われるという話です。

（あらすじ）いつものように家を追われた黒鬼の「おにた」は、豆のにおいがしない貧しい家に忍び込みます。その家では、娘が病気の母を看病していました。「お腹がすいたでしょ」と気遣う母親に我慢して嘘をつく娘を見たおにたは、帽子を被って娘に赤飯とウグイス豆を届けます。喜んだ娘は、赤飯を食べながら、ふと「豆まきをしたい。鬼が来れば母の病が重くなる」と言います。それを聞いたおにたは、悲しそうにみぶるいして「おにだって、いろいろあるのに。おにだって……」とつぶやき、姿を消します。おにたが消えた後には、被っていた麦わら帽子が一つ。娘が帽子を拾うと下に黒い豆がありました。喜んだ娘は、「鬼は外、福は内」と豆まきをしたのです。

国語の学習で、この物語を読み深めていくと、子どもたちは「おにだって、いろいろあるのに。おにだって……」というおにたの最後のつぶやきが気になります。特に最後の「……」から、おにたの気持ちを考えます。おにたの優しさにふれた子どもたちは、本当のことも知らずに、見た目やイメージ、誰かが言った噂などだけで決めつけることはおかしいと思います。そして、「……」に込めた本当の気持ちを女の子に伝えられないおにたの悲しさを感じ取ります。本当の気持ちを伝えること、相手の本当の気持ちをわかろうとすること。これは、とても難しいことです。

島田市の小中学校では、**「SNS ノート」**という教材を使った**情報モラル教育**を行っています。どうしたらよいのかを自分で考え、判断する学習内容です。例えば、こんな問題があります。

あなたが、友達から言われて「いやだな」と感じる言葉を一つ選びましょう。
① まじめだね　② おとなしいね　③ いっしょうけんめいだね　④ 個性的だね　⑤ マイペースだね

この問題に対する子どもたちの答えは様々でした。同じ言葉でも、良く感じる子もいれば、悪くとってしまう子もいます。子どもたちは、その違いに驚き、人によって見方や感じ方が違うことを認識します。そして、「言葉の難しさ」「人に伝えることの難しさ」を改めて感じたようです。

本年度は、**「あたたかな言葉で伝え合う」**を合言葉に教育活動を進めてきて、子どもたちにもすっかり根付いています。だからこそ、あたたかな言葉で相手に伝えることや、あたたかな気持ちで相手の気持ちをわかろうとすることに悩むことがあります。**そんな葛藤や迷いに、私は子どもたちの成長の芽を感じています。**この芽が大きく伸びていくように支えたいと思います。（校長　小林 正宣）